

さいたま市長定例記者会見

令和4年10月12日（水曜日）

午後1時30分開会

- 進 行 定刻になりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社、埼玉新聞さん、進行をよろしく願いいたします。
- 埼玉新聞 10月の幹事社を務めます埼玉新聞と申します。よろしくお願いいたします。
それでは、市長から記者会見の内容について、説明をお願いいたします。
- 市 長 皆さん、こんにちは。
爽やかな風に真っ青な空、1年で最も過ごしやすい季節になりましたが、お出かけを楽しみにされている方もたくさんいらっしゃると思います。
さて、本市では3年ぶりに10区全てにおきまして区民まつりを開催いたします。私も先週土曜日、南区ふるさとふれあいフェアに参加をいたしました。約3万人の方がお越しになった会場の浦和競馬場は、以前にも増して活気にあふれ、そしてたくさんの素敵な笑顔に出会うことができました。
区民まつりは、地域の魅力や区民同士のつながりを感じることができる貴重な機会です。そのほかの区におきましても、これから11月にかけてしっかりとした感染対策を講じながら開催してまいります。参加される皆様におかれましても、対策にご配慮いただきながらぜひ区民まつりをお楽しみください。
それでは、議題に入ります。

市長発表：議題1「新型コロナウイルスの感染状況とワクチン接種状況について」

まず、議題1：「新型コロナウイルスの感染状況とワクチン接種状況について」です。

最新の本市の感染状況は、こちらを御覧ください。先週1週間の新規陽性者数については1,963人で、前の週と比べますと(0.76)倍となっております。

日別の新規陽性者も、前週の同曜日を下回る状況がおおむね続いており

ます。このように本市の感染状況は、8月の中旬以降長期にわたる減少傾向が継続しております。

本格的に秋の行楽シーズンに突入し、人流増加などに感染の再拡大も懸念されることから、変化の兆候をいち早くつかむために引き続き感染動向を注視してまいります。

全数届出の見直し後、2週間が経過しました。発生届対象外の方の陽性者登録についてですが、登録をされていない方も一定数見受けられます。急な体調変化の際の備えとして、陽性判明後はぜひ登録をいただきますよう改めてお願い申し上げます。

次に、オミクロン株に対応した新型コロナワクチン接種についてご説明します。オミクロン株対応ワクチンは、高齢者であるかや基礎疾患の有無にかかわらず、従来ワクチンを2回以上接種した12歳以上の全ての方が接種することができるようになります。

ワクチンは、現在使用しているBA.1対応型か、あるいはBA.4-5対応型かにかかわらず、どちらかのワクチンを1人1回接種することになります。接種を受ける際は、お手元の3、4回目の接種用クーポン券をご使用ください。4回目接種済みの方には、接種間隔経過後に新たに接種用クーポン券を発送する予定です。

先日、オミクロン株BA.4-5に対応したワクチンの使用についても国で承認をされました。本日、14時半からは国の自治体向け説明会が行われ、使用方法等について説明がなされる予定となっております。本市でも今後BA.4-5対応型を含むオミクロン株対応ワクチンで接種を実施していくこととなります。オミクロン株対応ワクチンは、従来ワクチンを上回る高い予防効果が期待されております。現在、比較的予約が取りやすい状況となっておりますので、お手元に3、4回目の接種用クーポン券をお持ちの方はぜひお早めの接種をご検討いただきたいと思いますと思っております。

市長発表：議題2「第8回東日本連携・創生フォーラム」を開催します」

続きまして、議題の2：「第8回東日本連携・創生フォーラム」を開催します」についてです。

まず、開催趣旨ですが、東日本連携推進事業はさいたま市が総合振興計

画の将来都市像に掲げている東日本の中枢都市の実現に向けた重要施策の一つであり、本市の地域経済活性化及び東日本全体の地方創生を目指す取組です。平成27年から、主に東日本地域の新幹線沿線自治体と都市間連携を協議する場として、東日本連携・創生フォーラムを開催しております。

それでは、フォーラム開催の概要について説明します。日時は、10月25日火曜日、14時から16時までを予定しております。過去2回は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンライン開催としておりましたが、今回はウィズコロナを意識して、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催します。対面で参加する場合の会場は大宮区の清水園で、さいたま商工会議所、さいたま観光国際協会等の関係団体も参加する予定となっております。

連携都市は、今年新たに岩手県岩手町が加わり、本市含め27都市になります。フォーラム当日は、各都市から提案された議題についての協議が行われるほか、これまでの関連事業の取組状況についての報告が行われる予定です。

今回のフォーラムでは2つの議題について協議する予定です。

1つ目の議題は、会津若松市、みなかみ町、さいたま市の2市1町で合同提案しております東日本でつなぐSDGsについてです。令和2年度の第6回フォーラムで合意いたしました東日本でつなぐSDGs宣言等を踏まえまして、SDGsアクションプランを策定し、令和5年度から具体的な取組を推進してまいります。

各都市で行われております具体的な取組の情報共有やイベント等における合同ブース出展による情報発信等のアクションを実施しておりますが、最終的にはSDGsの実現に向けた都市間連携につなげていきたいと考えています。

2つ目の議題は、福井市からご提案いただきました「戦国の城、安らぎの景色」をテーマとした連携についてです。庭園等の安らぎの景色や戦国時代の城を共通のテーマとするカードを作成して、収集を目的とした観光客による周遊を促進するものです。この連携事業は、北陸新幹線福井延伸に併せて行うもので、市外から本市に訪れていただくきっかけづくりとして、大いに期待しているところです。

議題に続いて、前回フォーラム以降この1年間で行われた8つの連携事業の取組について、各都市から報告する予定です。互いの広報紙に観光やイベントの情報を掲載し合う広報紙連携をはじめ、まるまるひがしにほんに出展した都市にイベント開催情報等を伺い、連携事業の情報共有や横展開につなげていきたいと考えています。本市からは、まるまるひがしにほんを活用した新幹線物流の取組状況等を報告します。

今回は、初めてのハイブリッド形式による開催となりますが、参加自治体と顔の見える関係性を構築し、さらに都市間連携を深めてまいりたいと考えています。また、フォーラムを中心に各都市との連携を深め、東日本のヒト・モノ・情報の交流、発信をさらに促進し、本市の将来都市像である東日本の中核都市の実現につなげていきたいと考えています。

市長発表：議題3 「「J:COM presents 2022 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」を開催します」

続きまして、議題3：「「J:COM presents 2022 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」を開催します」です。

いよいよ来月11月6日の日曜日にさいたま新都心駅周辺で開催されます。今年で8回目を迎え、2019大会以来3年ぶりの開催となります。テレビ放送は、J:テレ、J SPORTSで生中継され、またさいたまクリテリウム公式チャンネルで大会初となるユーチューブでのライブ配信を行うことになっております。さいたま市が日本国内にとどまらず世界に向けて配信される機会となります。

こちらは、大会当日のスケジュールです。1日を通じて、さいたま新都心周辺でお楽しみいただけるようになります。まず、10時から、さいたまるしえ、サイクルフェスタが始まります。レースが始まる前までの時間は、これらの同日開催イベントや後ほど説明しますが、コクーンシティ、またけやきひろばで行われるクリテリウムWEEKの展示をお楽しみいただきたいと思います。そして、11時にはコース観覧エリアとアリーナ内の観覧席がオープンとなります。12時15分からは、競技が行われる特設コースを走行できる一般体験走行が始まります。その後、オープニングセレモニーが行われ、13時には、選手紹介に続き特設コースを選手たちがパレードランを行います。

レースは、タイムトライアルレース、クリテリウムメインレースの順で行われます。タイムトライアルレースは、個人とチームがあり、各選手もしくは各チームが1組ずつスタートし、ゴールまでの所要時間を競うレースです。パラサイクリング選手や女子、男子ジュニア選手も参加します。クリテリウムメインレースは、1周約3.5キロメートルのコースを17周走行し、順位を競うレースです。海外、国内全チームが出場します。世界トップレベルの選手たちの白熱したレースにご期待いただきたいと思えます。

大会当日は、有料観戦エリアと無料観戦エリアを用意しています。おかげさまで、有料観戦エリアについては10月7日をもって完売したので、チケットをお持ちでない方はコース沿道、また緑色の無料観戦エリアでお楽しみください。なお、メインレースはサイクルフェスタ会場及びコクーンひろばのパブリックビューイングでも観戦ができます。

次に、今年からの新たな取組「さいたまクリテリウムWEEK」を紹介します。

ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム当日に向けて、さらに大会を盛り上げ、より多くの皆さんにさいたまクリテリウムに参加していただくため、大会前の約1週間をさいたまクリテリウムWEEKと題して、自転車やツール・ド・フランスにちなんだ様々なイベントを行ってまいります。

クリテ e a t s では、さいたま市を中心とした食を扱う店舗におきまして、さいたまクリテリウムの名称やロゴを使用したコラボ商品が販売されます。参加店舗や詳細は、大会公式ウェブサイトを御覧ください。

また、自転車の魅力を幅広い世代に知っていただくことを目的として、入園前の子供から小学2年生を対象としたランバイクレースを実施します。

また、会場になっているさいたまスーパーアリーナでは、さいたまクリテリウムやフランスにちなんだカラーのライトアップを期間限定で行います。御覧のトリコロールカラー以外のライトアップもありますので、ぜひ夜のさいたまスーパーアリーナにお越しいただき、ライトアップを御覧いただきたいと思えます。

次に、「上越新幹線開業40周年×大宮ナポリタン スタンプラリー×さ

いたまクリテリウム」を実施します。3店舗の大宮ナポリタンを食べてスタンプを集めると、商品の応募ができるスタンプラリーです。また、参加店舗で大宮ナポリタンを召し上がってくださった方には、クリテリウムステッカーをプレゼントします。

11月4日には、大宮高島屋8階レストランローズで、私と大宮駅長、大宮ナポリタン会会長、さいたま観光国際協会会長で大宮ナポリタンの試食会を行います。私からも精いっぱい食レポをさせていただきますので、ぜひ取材にお越しく下さい。当日の詳細は、後日お知らせします。

さらに、市内の小中学校、高等学校とも連携して、さいたまクリテリウム記念給食及びフランスの食文化を感じる学校給食として、市立の保育園、小学校、中学校、中等教育学校、特別支援学校でフランスの食文化を感じられる給食を実施します。

また、クリテリウムや自転車に関連した黑板アートや広報イラストを作成していただき、展示、発信するほか、さいたま市のPR動画を英語で作成していただくことで、海外の方へもさいたま市の魅力を発信していきたいと考えています。

ほかにも、さいたまクリテリウムWEEKでは御覧のようなイベントや展示会を行います。さいたま市商店会やレース会場周辺の商店会連合会と連携した「さいたまクリテリウムWEEK レシートdeプレゼントキャンペーン」は、さいたま市商店街で行っておりますので、皆様ぜひ御参加ください。

また、大会レース会場のさいたま新都心周辺では、ツール・ド・フランスや自転車に関する展示などを実施します。クラシック自転車の展示、今年のツール・ド・フランス本大会の写真パネル、市内の小中学生が描いた絵画の展示などを行います。実施場所は、コクーンシティコクーン2、3階のコクーンホール、けやきひろば1階プラザです。

また、大会前日にはさいたまスーパーアリーナ、コミュニティアリーナ内で、「2022 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム前夜祭スペシャル」が開催されます。2022ツール・ド・フランスで総合優勝したヨナス・ヴィンゲゴー選手たちをゲストに迎え、レースでの真剣な表情とは異なる楽しそうな選手たちの様子を御覧いただけるものです。主催者のさい

たまスポーツコミッションでは、観覧者を200名募集し、うち100名をさいたま市民優先で募集します。応募は、大会公式ウェブサイトの応募フォームからお申込みができますのでご応募ください。応募期間は、10月16日までとなっています。

続いて、同日開催イベントについてです。サイクルフェスタは、11月5日13時から、11月6日は10時から開催し、両日とも17時まで開催します。さいたま市の自転車政策の柱「たのしむ」「まもる」「はしる」「とめる」の4つの視点をテーマにブースの設置や体験コーナー、ステージ等を設けまして、自転車ファンのみならず、小さいお子様からお年寄りの方まで多くの方が楽しめるイベントです。例年人気のイベント、子どもの自転車レースのキッズロアを今年も開催する予定です。ふだんは体験できない特設コースが魅力です。

また、11月6日、さいたまクリテリウム当日は、自転車が大好きな芸人の安田大サーカス団長さんをはじめ、たくさんのゲストを呼んで、特設ステージでトークショーやパフォーマンスショーを行います。最後は、さいたまクリテリウムのパブリックビューイングを行う予定です。ぜひ会場まで足を運んでいただきたいと思います。

続きまして、同日開催のもう一つのイベント、さいたまるしえについて紹介します。さいたまるしえは、11月5日、6日両日とも10時から17時まで、けやきひろばで開催します。フランス市場、さいたま市場、さいたまクリテリウム協賛企業ブース、さいたま市PRブースの4種類のブースが出展します。フランスの食をテーマとした飲食物やさいたま市のご当地グルメなど多種多様な食を楽しむことができます。ワイン、シャンパンをはじめ、さいたま市クラフトビールなども楽しめます。両イベントがさいたまクリテリウムと併催されることで、新都心エリア全体が盛り上がるものと考えています。

次に、SDGsの取組を説明します。持続可能な社会の実現に向けて、本大会の開催、また運営を行うことで、SDGsに係る取組の実施につなげていくものです。子ども向けランバイクレースや一般体験走行では、健康増進や自転車利用の促進による脱炭素社会の実現を目指してまいります。また、女子、ユース、パラサイクリングなど多様な選手に活躍の場を提供

します。さらに、清掃活動、またペットボトルの削減やPR用バナーの再利用による商品化を図ることで、環境の保全にも取り組みます。さいたまクリテリウムを通じて、SDGsの取組の周知を図り、さいたま市民に浸透させるとともに、その取組をさいたま市から日本全国、また世界へ発信します。

最後に、大会開催に伴い、当日の9時30分から18時30分まで交通規制を行います。周辺住民の方や企業の方にはご不便をおかけいたしますが、3年ぶりの大会を安心安全に開催するため、皆様のご理解、ご協力をお願いします。

市長発表：議題4「第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま」を開催します」

次に、議題4：「第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま」を開催します」です。

自転車利用環境向上会議は、全国各地の自転車関連の取組を広く発信、共有するとともに、具体的なまちづくりにつなげていくことを目的とした国の自転車活用推進計画に位置付けられた全国会議です。

第9回会議は、11月4日金曜日、5日土曜日、Ra i B o C H a l lで開催します。首都圏初めての開催です。会議コンセプトは、昨今の社会情勢を踏まえまして、「安全で持続可能なモビリティライフと自転車～B e y o n d t h e C O V I D 1 9 新時代の自転車ライフ～」と定め、主にこちらに記載のプログラムを実施してまいります。

参加者は、自転車に関する取組に携わっている国、また地方自治体、大学、また民間企業の方々が中心です。過去の動員実績としては、前回会議では約500名が参加されました。さいたまクリテリウムと開催時期を合わせたことで相乗効果が期待できるため、今回も多く参加者を見込んでいます。

会議1日目は、主に基調講演とパネルディスカッションを行います。見どころとなるパネルディスカッションは、2部構成です。

まず、見どころの1つ目の第1部は、コロナ禍で注目されている自転車活用について、海外自転車先進国の最新事例を現地当事者が直接スピーチします。フランスでの事例は、オックスフォード大学院のマリオンラガデ

イック氏、またオランダの事例では、自転車活用推進をオランダの国内外で行う団体であるダッチサイクリングエンバシー代表理事のルーカス・ハームズ氏から紹介されます。

また、見どころの2つ目である第2部では、第1部での事例紹介を受けて、私も加わり自転車先進国であるオランダの駐日大使館公使や、国の自転車施策を牽引している自転車活用推進本部、日本のプロロードレースリーグ、ジャパンサイクルリーグの最高責任者である片山右京氏などにもご登壇いただき、これからの日本、さいたまの自転車政策を議論することになります。

次に2日目です。前半の会議の見どころとしては、自転車利用環境向上のため、注目すべき6つのテーマを選定し、分科会を開催します。各分科会の座長は、全国の都市や地域の自転車利用環境向上に関する施策の研究、知識の普及啓発を行っている自転車利用環境向上会議全国委員会メンバーが務めてまいります。各テーマにおいて、知識、経験、実績のあるパネリストが参加し、国内の最新事例や、これからの自転車利用環境の向上につながる情報発信をします。

分科会は、2部構成で、第1部と第2部からそれぞれ1テーマを選び、参加していただきます。第1部のテーマは、自転車通行環境整備、シェアサイクル事業のあり方、サイクルツーリズムです。第2部は、自ら楽しく学ぶ自転車安全利用、交通ネットワークの一員としての自転車、「次、何しよう？」自転車活用推進の事例とツボです。

「次、何しよう？」自転車活用推進の事例とツボでは、各地の自治体における自転車活用推進に関する課題、また疑問についてさいたま市などの取組を話題提供して、解決のヒントを見いだしていくことなどについて取り扱う予定です。

会議2日目の後半は、サイクルフェスタと連携した現地視察と散走体験のプログラムを用意しています。散走体験は、会場のR a i B o C H a l l 近くから出発して、「さいたま市の歴史に触れる街中散走体験」と銘打ち、見沼たんぼをはじめとした大宮周辺の歴史に触れるスポットをシェアサイクルで巡っていただきます。散走とは、自転車でする散歩のことで、ゆったりとしたサイクリングのことを表します。

現地視察は、さいたま新都心公園周辺で同日開催しているサイクルフェスタと連携して、サイクルフェスタ会場で、本市が実施している施策を視察していただきます。

1つ目のマルチモビリティ実証実験の視察、説明会では、本市で実証実験中の電動アシスト付き自転車、スクーター、超小型EVによる複数のモビリティのシェアリングについて、実車等の視察と市の担当者、運営事業者による説明会を実施し、本市のシェアモビリティの利用状況等を知っていただきます。

2つ目のデンマーク式自転車教室の視察体験では、楽しみながら運転技術や危機管理能力が身につけられる、幼少期からの自転車教育手段として注目されているデンマーク式の自転車教室の概要説明と実地体験を行います。

会議の参加方法は、会場に直接お越しいただくか、オンライン会議アプリでリモートにてご参加いただくかをお選びいただけます。申込み方法は、さいたま市のホームページから10月21日まで受付を行っていますので、奮ってご参加いただきたいと思えます。

さいたま市では、「さいたま自転車まちづくりプラン～さいたまはひと～」の将来像である「人と環境にやさしい 安全で元気な自転車のまち さいたま」を実現するため、「たのしむ」「まもる」「はしる」「とめる」の4つを計画の柱に掲げ、自転車レース、イベントの開催、支援、シェアサイクルの実証実験、自転車通行環境の整備、交通安全教育、放置自転車対策の推進など計30のハード、ソフトの様々な方策に取り組み、自転車を活用したまちづくりを進めています。

その中で、本日ご紹介しましたツール・ド・フランスさいたまクリテリウムは、本市を代表するイベントとして全国的にも認知され、市民の自転車文化の醸成にも大きく貢献しています。

これまでのさいたまはひとの取組の積み重ねが実を結び、自転車利用環境向上会議の首都圏初開催につながったものと考えています。自転車利用環境向上会議、サイクルフェスタ、さいたまクリテリウムの自転車関連イベントを集中開催する11月4日からの3日間は、改めて「自転車のまち さいたま」を全国に、また世界に発信していきたいと考えていますので、

どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

議題に関する質問

- 埼玉新聞 幹事社として質問させていただきます。コロナの全数把握を約2週間と
いうことですが、登録されていない方もいらっしゃるようですが、
それはどのように把握して、減少傾向は続いていますけれども、どのぐら
いの割合の方が登録されているか、されていないかというのは分かっ
ていらっしゃるでしょうか。
- 市長 全数届出の見直しから約2週間がたちまして、おおむね大きな混乱もな
く対応ができています。医療機関、保健所における発生届出に関する業務
は、双方において一定の負担軽減があったと聞いていますので、今般の見
直しの趣旨である高齢者や重症化リスクのある方への対応力の強化につな
がっているものと考えています。

課題としては、発生届の対象外となった方の陽性者登録の促進が必要だ
と考えています。陽性者登録は、連絡先、日々の健康状態を入力すること
で、体調の悪化時に円滑に必要な医療につなげることができる大変重要な
手段です。届出対象外の方には、ぜひ速やかに届け出いただきますよう、
改めてお願いします。

現状としては登録されている方が9割、されていない方が1割という状
況です。本市としては、届出対象外となった方に登録いただくことで、安
全が確保できると考えていますので、医療機関などで行っていただいでい
る陽性者へのチラシの配布に加えて、市ホームページ、またSNS等あら
ゆる広報媒体を通じて、継続的な周知に努めていきたいと考えております。
- 埼玉新聞 現状としては、1割の方が登録されていないということなんですけれど
も、これはどうやって分かるのかということと、1割ですけれども、影響
というのはそれほど大きくないのかと。
- 市長 全数から届出をしている方を引いた数だと思いますが、担当のほうから
説明します。
- 事務局 医療機関からいわゆる4要件に合致する高齢者などについては発生届が
出ますが、それ以外の発生届出の対象でない方についても、人数のみは年
代別に報告いただくことになっています。それを分母にして、個別に自主

的な登録をいただいた方を分子にして出したものが、先ほど市長から説明した(9)割です。

- 市長 現時点では、今のところ大きな混乱はないということです。
- 埼玉新聞 続いて、クリテリウム、3年ぶりの開催ですけれども、コロナの影響も含めて、3年前とどういったところが違うのかというところと、アピールするところをもう一度お願いいたします。
- 市長 約2年間、クリテリウムが実施できなかったわけですが、この間感染者の拡大、あるいは重症化される患者さんもかなりいたという状況の中で、外国人選手を日本に招請して、密になる可能性のある大会を開催することを延期してきました。今年については、例えばサッカーにおいてはマスクをした状態での声出し観戦が認められるようになりました。コロナの感染状況についてもオミクロン株になって少し重症化する割合が減ったという状況もあります。国の水際対策も解けてきた状況下であります。そうした中で、クリテリウムに限らず、これまで開催してきたイベント等を秋口から徐々に、感染対策をしながらできるだけ開催して(いこうと考えています。)これまでどおりにはいかない部分もあろうかと思いますが、できるだけ日常に近い形で皆さんに楽しんでいただいたり、安らぎを取っていただいたりする機会を持っていきたいという思いで、今回実施させていただくということです。
- 埼玉新聞 コロナが起きて3年たって、3年前とどういうふうに違うのかなと、開催方法とか。
- 市長 3年前と比べると、感染対策を行っていますので、いつものやり方とは少し違う部分もあると思っています。その中で十分気をつけながら、感染対策を施しながら安全に実施をしていきたいと考えています。
詳細は、担当のほうからお答えします。
- 事務局 コロナの感染対策は、多くの方が集まるということで、埼玉県に感染防止安全計画を提出しています。それに基づき、基本的なコロナの感染対策、手指の消毒ですとか、大きな声を出さない、ソーシャルディスタンスの確保、そういった注意喚起を行いながら、感染防止対策を徹底して開催するというのが3年前と異なる部分かと考えています。
- 埼玉新聞 各社、市長の発表事項に対する質問を、お願いいたします。

- 日本経済新聞 日経新聞です。
- 基本的なところの確認です。クリテリウムWEEKは、主催はさいたま市でいいんですか。さいたま市が主に開いているという言い方をしていますか。
- 市長 主催はさいたまスポーツコミッションで、さいたま市は共催的な役割です。
- 日本経済新聞 個別のイベントについては、それぞれの団体が開いていて、今回市長がこういうWEEK開きますよということで発表されたということでしょうか。
- 市長 はい、そのとおりです。
- 朝日新聞 朝日新聞です。よろしくお願いします。
- 東日本連携・創生フォーラムの関係でお伺いします。今回このフォーラムの中で、今後連携していく事業で8つほど取り上げられています。恐らく新幹線も絡んだ形の連携になるので、さいたま市でいうと大宮が拠点になるのかなと思います。今大宮駅前って再開発がどんどん進んでいて、これからもっと便利になっていくのだと思います。連携していく都市にとっても、大宮を使うメリットってどんどん増えていくと思うんです。そういう新しい大宮を使って、今後どういった役割を果たしていこうと考えていますか。
- 市長 1つは、総合振興計画の中で「東日本の中枢都市」を目指していると掲げています。中枢都市というところちょっと誤解をされる方もいらっしゃるかもしれませんが、さいたま市はまさに東日本全体の首都圏との玄関口としての役割を持っています。また、国の首都圏広域地方計画の中でも東日本の対流拠点という位置づけをいただいています。さいたま市が東日本のいろいろな地域と連携をしながら、東日本全体の地域経済、あるいは地方創生の活性化につなげられるようなことを一緒につくり上げていきたいと思っています。将来的には、東日本のおいしいものや良いものがさいたま市で買えたり、首都圏の人たちが東日本に行っていただくための一つのきっかけといいますか、機会をつくったりしていくことによって、東日本それぞれの地域が輝いて活性化するように、そのパートナーとして発展していくことが、さいたま市の、それから大宮駅周辺の一つの発展の仕方では

ないかと考えています。

- 朝日新聞 まさにヒトとかモノとか情報のハブになるまちということでしょうか。
- 市長 そうです。おっしゃるとおりです。そういう意味では、北海道、東北、上越、信越、北陸全ての新幹線が大宮まで来て、ここから別れていくという形になりますので、私たちとしてはハブといいですか、結節点としての役割をいかに果たしていくことがすごく重要なことであると思うし、東日本の発展に貢献できる都市になることが、ひいてはさいたま市全体の発展にもつながってくると思っています。

- 東京新聞 東京新聞です。
東日本連携・創生フォーラムですが、今回ハイブリッド開催ですが、今のところ直接来られる方、代理出席もあると思うのですが、その状況を教えていただけないでしょうか。

- 市長 後ほどお知らせさせていただきます。(会見後、首長が自ら出席する都市は5都市を予定している旨を説明。)

幹事社質問①：政府は物価高騰対策を打ち出す予定ですが、さいたま市として支援策の検討や考えがあれば教えてください

幹事社質問②：さいたま市出身の若田光一宇宙飛行士への応援の言葉、期待を教えてください

- 埼玉新聞 幹事社質問、2つありますけれども、2つ読み上げます。
10月に入り食品の値上がり、高齢者の医療費負担が2割に引き上げられるなどしました。ウクライナ侵攻、円安も続き、家計を圧迫しています。政府は物価高騰対策を打ち出す予定ですが、さいたま市として支援策の検討や考えがあれば教えてください。

2つ目は、さいたま市出身の若田光一宇宙飛行士が5度目の宇宙飛行で国際宇宙ステーションに長期間滞在しています。若田さんへの応援の言葉、期待を教えてください。

あとは、追加で交信イベントとかありましたら教えていただけますか。

- 市長 それでは、幹事社質問に順次お答えしていきます。
新型コロナウイルス感染症や物価高騰等により、市民の家計への負担、また事業者の置かれている経営環境への影響など、厳しい状況が続いてい

ると認識しています。

本市では、6月の追加補正により、学校や保育所等に対して、食材などが高騰する中でも、子どもたちに質や量を保った給食を提供できるよう食材の物価高騰分の支援を行いました。また、高齢者施設、障害者施設、保育所、幼稚園等に対しては、事業継続のための支援金を給付し、市内の地域公共交通事業者に対しては、運行継続のための支援金を給付したところ
です。

市内事業者に対しては、企業が価格転嫁や生産性向上によって収益を向上させ、賃金を引き上げること等により家計の可処分所得を増やしていく、賃上げと価格転嫁の好循環が重要と考えています。その中で、市制度融資による資金繰り資金、あるいは生産性向上支援、エネルギーコスト節減に資する設備投資に係る補助等の支援を行ってきたところ
です。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた観光事業者の支援及び消費喚起策として、国の全国旅行支援の実施に併せて、市内宿泊施設が割引料金で宿泊できるさいたま市宿泊促進キャンペーン、さいたま割を開始したところ
です。

今後の対策については、国が9月に創設した電力・ガス・食料品等物価高騰重点支援地方交付金等を活用して、エネルギーや食料品価格等の物価高騰の影響を受けた市民や事業者に対する支援策を検討しているところ
です。

また、国は10月末に総合経済対策を策定し、秋の臨時国会に提出すると聞いています。本市としては、引き続き国の動向を注視しながら、物価高騰の影響を受ける市民の負担を軽減するための対策を速やかに実施していきたいと考えています。あわせて、市内経済状況を注視するとともに、市内経済団体等からのご意見なども踏まえて、きめ細やかな企業支援を検討して
いきます。

それから、若田宇宙飛行士に対する質問でございますが、さいたま市出身の若田光一 J A X A 宇宙飛行士が宇宙船クルードラゴン 5 号機に搭乗し、無事に国際宇宙ステーションに到着され、宇宙で活躍されていることを大変うれしく思っています。さいたま市民を代表して心からお祝いを申し上げます。

今回のミッションは、日本人最多5度目、ISS長期滞在3度目、最年長フライトと記録づくめのミッションです。この快挙は、日本を代表する若田宇宙飛行士にしかなし得なかったことであると考えています。

また、若田さんはさいたま市出身であることから、宇宙劇場並びに青少年宇宙科学館の名誉館長をお引き受けいただいています。4回目のフライト品や幼少期に描いた絵などの展示品を提供いただいたり、市内の児童生徒を対象としたプラネタリウム学習でビデオメッセージをいただいたり、子どもたちにとって大変貴重な学習機会であるとありがたく感じています。昨年は本市誕生20周年の記念にお祝いのメッセージもいただきました。本市出身の方が世界で、また宇宙で活躍をされているということは、市民の皆さんにとっても大変誇らしいものであらうと認識しています。

また、教育委員会では、今回のミッションの中に、青少年宇宙科学館にて、国際宇宙ステーションに滞在する若田宇宙飛行士とさいたま市の子どもたちが交信するイベントの開催についてNASAと最終調整を行っていると考えています。決まり次第お知らせをしますので、ぜひご期待ください。

若田宇宙飛行士の活躍を間近に感じながら、市内の子供たちの宇宙や科学技術へのあこがれ、志がさらに強くなることを願うとともに、これからの宇宙時代をたくましく生きるさいたま市民の皆様の中から若田さんに続く第2、第3の宇宙飛行士が誕生することを期待しています。ISS長期滞在での若田宇宙飛行士のミッションが無事成功されることを心よりお祈りしています。

幹事社質問に対する質問

○ 埼玉新聞

ありがとうございます。

幹事社として、質問1の関係で、政令指定都市の川崎市はお子さんのいるご家庭に1万円を支給するという補正を出していますが、今後さいたま市としてこういったところを、先ほどおっしゃいましたけれども、重点に置いて支援策を検討されていますでしょうか。

○ 市長

先ほども少し申し上げましたが、エネルギーや食料品価格の物価高騰の影響を受けた市民や事業者に対する支援策が何らか必要と考えています。特に子育て中の皆さんであるとか、あるいは事業の皆さん、特に電力、ガ

ス等のエネルギーの高騰というのは非常に大きな影響があると伺っていますので、現在この支援策について検討しています。早急に対応していきたいと考えています。

- 埼玉新聞 各社さん、幹事社質問の関連で質問をお願いします。
では、その他の質問をお願いします。

その他：政府の水際対策緩和に対する受止めについて

- 読売新聞 読売新聞と申します。
まず、政府が水際対策を大幅に緩和しましたがけれども、これからさいたまクリテリウムとか国外の選手も来て、世界的にも注目される大会ではあるのかなと思うのですけれども、この政府による水際対策の緩和に対する市長の受け止めに教えてください。
- 市長 今回観光客の人数の上限も撤廃されたり、個人旅行を緩和したり、コロナの検査の部分も緩和されたりしました。今の円安の状況を受けて、かなりのインバウンドの観光客が日本全体にお越しいただけることになるだろうと思います。このエネルギー高、物価高、原材料高、あるいはコロナの状況下など、いろいろな要因があり、日本経済全体が非常に厳しい状況にある中で、水際対策を緩和することは日本経済にとって、大きな意味があるのではないかと考えています。これによって外国からのお客様も増えると思いますし、いろいろな地方にお金が落ちてくるのではないかと感じています。この11日からの全国旅行支援の受付状況も非常にたくさんの方が申込みをされているとも聞いているところですので、日本の経済としては非常に大きなものになるのではないかと思います。
- 読売新聞 関連してなんですけれども、これから外国人の入国がかなり期待できるというお話が今ありましたけれども、さいたま市として、こうした外国人観光客に向けて何か今検討していることであるとか、あるいは市長として取り組んでいきたいことがありましたら教えてください。
- 市長 先ほど申し上げましたとおり、これから国の全国旅行支援と併せて、さいたま割、さいたま市に宿泊された方々を対象に割引等を行います。2年前に実施したときにも非常にたくさんの皆さんに泊まっていただきました。また宿泊された方々が非常にたくさんの消費もしていただいたというデータもありますので、地域経済の活性化につなげたいと思っています。

ちょうどタイミングよくツール・ド・フランスさいたまクリテリウムも開催されますので、もちろん外国からというのもありますけれども、さいたま割を活用していただき、全国から1日、2日前からさいたま市に来ていただいて楽しんでいただくこともできるだろうと思います。また、さいたま市に宿泊すると都内にも行けるし、地方にも行きやすいのでPRをしていきたいと思っています。

これからのことなども含めて考えますと、やはりさいたま市は、いろいろな都市と連携していくことで、さいたま市の良さを知っていただけるのではないかと考えています。さいたま市独自の盆栽や人形もありますけれども、(市内だけで) 数日滞在するよりは、ほかの都市にも行っていただきながら滞在していただく方が魅力の増える旅行になるだろうと思います。先ほど申し上げた東日本連携も含めていろいろな都市と連携していくことで、さいたま市を拠点に(旅行する)という考え方もあるかもしれませんので、今後もそういったことを踏まえて対策を打っていきたくと思っています。

その他：市立学校での寄付受入れに関する不適切な会計処理について

○ 朝日新聞

開会中の市議会で、先日市立学校に現金の寄附があつて、不適切な会計処理がされているんじゃないかと議論がありました。市教委は、そのときの答弁で、市立学校では私費として、つまり私会計で処理をして、子どもたちのために教材を買いましたという説明がありました。この市の事業の一部が私会計で進められているということについて、どのような見解をお持ちでしょうか。

○ 市長

これから教育委員会で、今回のご指摘なども踏まえてルールづくりをして対応していくと伺っています。きちんとしたルールをつくっていただき、きちんと処理していくことが望ましいと思います。そのルールづくりは、今後、教育委員会でしっかり議論を詰めていくことになると思いますので、それを見守りたいと思っております。

○ 朝日新聞

市長部局にも建設事務所とか保健所といった出先機関があつて、善意ある市民からすると、地域の道路をよくしてくださいとか、コロナ対策をしっかりしてくださいということで、何らかの寄附が寄せられる場合もある

かと思います。そういう場合、保健所や事務所だとかに寄附が寄せられた場合、今回の教育委員会のように私会計で事業に使われているというケースというのはこれまであるのでしょうか。

- 市長 詳しい調査が行われておりませんので、まだお答えはできませんけれども、恐らく学校のほうもそうだと思いますが、お金で寄附をされたのか物品で寄附をされているのかということによっても扱いが違うと思います。その辺の状況については、現時点ではすぐに申し上げられません。後ほどご回答したいと思います。また、いずれにしても適切な基準、ルールに基づいて処理をされることが求められていると思っていますので、しっかり検討していきたいと思っています。

その他：宗教2世からの相談体制について

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
- 旧統一教会の問題で、厚生労働省と文部科学省が全国の自治体と教育委員会に通知を出したということで、今言われている宗教2世ですか、虐待とか、学校での問題とか、その辺しっかり対応しなさいという通知だと思うんですけども、さいたま市としてどういうふうに対応するかということと、宗教2世が今問題化されている中で集約して対応するとか、そういう検討とかされていますでしょうか。
- 市長 現状としては、特定の宗教等に限った形での対応というのは行われていないと思います。(宗教2世に関して) いじめの問題、それから連なる不登校の問題など、いろいろな問題に派生してくる可能性があります。私たちとしては、そういった特定のテーマを設けるかどうかは別としても、コロナ禍で子どもたちが不安やストレスを感じている部分が多くありますので、精神面でのサポート、バックアップを、教育委員会と市長部局が連携して、しっかりやっていかなければいけないと考えています。
- 埼玉新聞 分かればですけども、これまでそういった、統一教会を含めてですけども、宗教2世のお子さんとか成人された方からの相談というのは受けていらっしやったのか、どこで例えば受けていたのかというのが分かれば教えてください。
- 市長 申し訳ございません。今ちょっとすぐにお答えができません。後ほどお答えを返したいと思います。

その他：旧統一教会関連団体の自転車イベントの表敬を紹介した市議、県議から連絡・相談について

- 朝日新聞 朝日新聞です。

あわせて、旧統一教会の関係で、9月初めの市長会見で市長は旧統一教会関連の団体の自転車イベントの表敬を受けられたということで、あわせて県議とか市議が実行委員会に含まれていましたよというところは公表されたのですが、その後その市議、県議から市のほうに連絡もしくは相談というのはあったのでしょうか。
- 市長 相談とかは特に聞いておりません。それぞれの判断の中で検討されて対応されるものだと考えています。
- 埼玉新聞 どうもありがとうございました。
- 進行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催は10月27日木曜日、午後1時30分からを予定しております。本日はありがとうございました。

午後 2時30分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。